

「バブル」：新型コロナウイルス感染症流行下に、世界的なスポーツリーグの再開、経済の刺激、平常化の促進を目的とした、戦略的新規ラボ試験の活用による、安全で情報に基づいた公衆衛生管理

全米バスケットボール協会（NBA）
ニューヨーク州、米国

主なパートナー / 関係者

Christina Mack | Jim Weisberger | David Weiss | Yonatan Grad | David Ho

全米バスケットボール協会（NBA）の閉鎖型キャンパスによる職業衛生プログラム（以下、「NBA バブル」）は、新型コロナウイルス感染症流行期の早い段階に、斬新かつ大胆で、衛生重視のアプローチを採用することで、世界最高峰のプロバスケットボールリーグの安全な運営を促進し、困難な外出制限措置やソーシャルディスタンス措置の施行中に人々を結びつけ、活気を与えました。「NBA バブル」は、2020 年 7 月から 10 月の間に運営され、この困難な時期に NBA がシーズンを安全に終え、一般市民に正常な感覚をもたらすことを可能にしました。

包括的な SARS-CoV-2 検査戦略、データ主導の意思決定、およびその後の新型コロナウイルス感染症の低発生率は、「NBA バブル」の有効性を強調するものです。プロトコルには、1,000 人以上のキャンパス内滞在者に対する毎日の PCR 検査、キャンパスへの入場時の隔離、提供された個人防護用具（PPE）による屋内マスク着用、身体的・物理的距離の確保、包括的な消毒手順、建物換気の強化が含まれていました。「NBA バブル」内には、臨時の医療施設が作られ、施設内の診療所、移動式 MRI および CT スキャナ、移動式歯科治療、およびキャンパス内の臨床心理士が配置されました。プロトコルは、「NBA バブル」内に滞在している選手やスタッフの活動を管理するだけでなく、施設外に住んでいる、輸送、セキュリティ、生活用品と在庫管理、食品の準備、清掃サービスを提供している何千人もの業者も管理していました。「NBA バブル」のバックボーンとして機能する検査プログラムと、付随するアラートシステムと分析システムは、オーランド地域内で日常的にさらされるリスクを考えると、キャンパス外に住む、または通勤するスタッフや業者にとって特に重要なものでした。感染管理の原則の多くは知られているものであったものの、このような感染予防の疫学的応用は、この規模ではこれまで試みられていませんでした。

新型コロナウイルス感染症流行が始まった時期の外出制限措置施行中に、「NBA バブル」は、導入に必要となった 6,500 件以上の雇用を創出し、オーランドでは 2 億ドルを超える地元経済効果がありました。この取り組みの成功と「NBA バブル」の SARS-CoV-2 検査戦略に関連する科学的知見により、NBA の 22 チームのスタッフがキャンパスでの生活のあらゆる側面を安全に評価し、保護することができました。その結果、バブル内のキャンパスに滞在する NBA 選手と NBA チームスタッフの間で、新型コロナウイルス感染者を 0 人とすることを実現しました。



UNIVANTS[™]
OF HEALTHCARE EXCELLENCE